

気になるニュース わたしの視点

2022年の総務省家計調

査の結果が公表され「岐阜市の喫茶代3年連続1位」という記事が、2月8日付岐阜新聞の社会面に出ていました。

1世帯当たり年間1万5616円で、2位以下を大きく引き離している結果となっています。「モーニング文化」とも言われるくらい、岐阜の食文化を語る上で欠かせない喫茶店の存在ですが、実は、この家計調査を見ると、ちょっと気になる動きがありました。

2022年平均を1921年平均と比べてみると、「キャンデー」が、3位の年間2592円から2709円で全国トップへ。「チョコレート」が8位の年間7546円から7839円で金沢市に次いで全国2位に。さらには、「スナック菓子」も4位の7055円から7355円で3位に。「プリン」も12位の1823円から1988円で5位に躍



道家経営・法務事務所代表 道家睦明氏

岐阜市の喫茶代 3年連続 1位

どっけ・むつあき 1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。2020年から愛知県立芸術大非常勤講師も務める。笠松町在住。

進。「ゼリー」は9位から7位へ、そして「ケーキ」も14位から11位へと、洋菓子のランキングが上がってきています。

もともと、ようかんやまん

全国の都道府県庁所在地と政令指定都市を対象にした2022年の総務省家計調査が7日公表され、岐阜市は1世帯当たりの喫茶代支出額が3年連続で1位だった。2位は名古屋市で、3位はさいたま市。前年2位だった東京都港区は4位だった。

調査は2人以上の世帯を対象に行われ、岐阜市は1世帯当たり1万5616円で、名古屋市の1万3427円を大きく引き離れた。

22年家計調査

岐阜市の喫茶代 3年連続 1位

さいたま市は1万1112円、東京都港区は1万829円だった。物価高騰にもかかわらず、岐阜市は前年の1万2486円から3千円以上伸びており、喫茶文化の定着ぶりがうかがえた。

1万5616円、高齢者憩

喫茶店主らでつくる県喫茶組合の牧野義春事務局長は「岐阜市内を中心とした喫茶店では、コーヒー一杯の単価が世間と比べて安い。調査結果は、頻りに店を訪れる人が多いことを示した。」と述べた。

2023年2月8日付24面より

じゅう以外の、鮎菓子などに代表される「他の和生菓子」の消費が多い地域ですが、これらの洋菓子系の伸びは新しい兆しとも言えるのではないのでしょうか。

昨年、岐阜県内で一番の話題となった「信長まつり」開催時に、「第1回日本プリンアワード2022」が開催されました。全国から選抜されたプリン専門店20店舗が集まり、参加した市民の皆さんと

スイーツ文化、喫茶を後追い

共に、グランプリを決めるというイベントでした。グランプリに輝いたのは大野郡白川村の白川郷ぷりんの家の「水ぷりん」、銀賞に輝いたのは大垣市の粹料亭助六の「料亭和プリン」と、県勢が1位、2位を独占しました。

このイベントは岐阜で継続開催されることになっており、岐阜では新しいスイーツの文化がモーニング文化の後を追いかけてきているようです。「トーストに茶わん蒸し」などがモーニングの定番ですが、「モーニングから生まれたいスイーツ」が全国を制覇するのにも近いかもしれません。

(引用記事は11日付電子版最終面に掲載)



電子版利用のため
の会員登録は
こちら